

## 第1回社会人ボランティア（学生以外）ミーティング議事録（12月8日実施）

司会：ボランティア部会部会長、

参加者：ボランティア統括幹事、

ネットワーク部会2名、ウェルカム部会2名、教育交流部会1名、派遣部会1名、  
ホームステイ部会1名、通訳・翻訳1名

オブザーバー：ボランティア部会副部会長

司会：APCCボランティアには社会人が少ないので、横のつながりを持っていただきたい。また、こども会議が今後20回以降、より良い事業を行っていくために、様々な立場のボランティアさんから意見をいただきたい。

〔自己紹介〕

- 去年から登録。娘が派遣事業に参加してオーストラリアへ行った。夏にHFとしてミクロネシアのこども大使を受け入れた。
- 19回より登録。ウェルカム部会所属。節目の来年20回から参加しようかと思っていたが、1年間の違いは大きいと思い、以前から興味もあったので登録した。
- 13回から登録。チャリキャン、ボランティア部会に所属していたが、今年はファン拡大部会にも所属。
- こども大使の受入れHFを4年ほど経験し、ミッションにこどもが2回参加。だんだん自分の時間を持てるようになってきたので、去年からHS部会と通訳・翻訳での手伝いをしている。
- APCCには15年以上関わっている。NW・派遣・教育交流に所属している。派遣には一般引率者の募集が始まって以来毎年参加している。来年も参加の予定。
- 第19回から登録。70歳以上のボランティア登録者の1人。

統括幹事：12回、学生の頃から関わっている。今年はファン拡大部会の部会長。幹部としてボランティア部会を担当。こども会議は学生ボランティアが多くてパワフルだが、大人の方には大人の関わり方があり、こども会議をもっと良い形にしていく力を秘めていらっしゃるが、これまではその機会があまりなかった。今回は新しい試みである。ご協力を宜しくお願い致します。

オブザーバー：ボランティア部会の副部会長。高校2年生。

司会：今年度の説明から始めます。

〔記念誌を用いて派遣・招聘事業・ブリッジ事業の説明〕

〔APCCボランティア登録状況資料の説明〕

→50代以上が少ない。男性ボランティアが少ない。

司会：社会人・男性ボランティアの層が薄いという点について、原因を考えていきたい。

**【質問】** 皆さんはどのようなきっかけでAPCCに関わるようになったのか。

- ボランティア4年目。レインボープラザでチラシを見たのがきっかけ。国際交流をしたいと思って登録した。
- 30～40年前と比べて、南太平洋の国の人々が現在どういう風に生活されているかを知りたいと思った。40～50年前、熱帯林業の仕事で1箇所（1つの島）につき3年在住。3地域で生活していた。植民地から独立したこともあり、当時と今とでは現地での生活も随分変わっただろうと思う。
- PCをやっていたこともあり、現事務局長の誘いで、APCCのことを世界に発信するプロジェクトに加わったのがきっかけ。
- こどもを通して関わるようになった。20年以上前、最初にJCがAPCCを立ち上げたときにJCの人と話をしたことがあり、その時HSはいい経験になると思ったが受入れはとても出来ないと考えていた。その後、自分達がHSをしたことがきっかけで、国を知るにはHSが一番だと思い関わるようになった。キャンプ等も少しずつ見せていただいて、APCCが大きな活動であることが分かり、現在では親子で夢中になっている。
- こどもも手が離れ、周囲が働き始め、1人になる時間が多くなって何かしたいと思っていたときに、新聞でAPCCのボランティア募集を見た。2度目に見たときに、何か呼ばれている気がして登録した。以前は登録の際に2度説明会に参加しなければならず、1回目は社会人もいたのに、2回目は学生ばかりで場違いかと感じた。登録後、イベントのお知らせが来て、参加してみたら他のボランティアさんと仲良くなった。
- 随分昔、ニュースでこども大使が空港に降りてくる映像が流れていた。「こども会議」と聞いたので、会議をしているのかと思っていたが、アナウンサーが主旨や内容を話していた。もともと国際交流や海外の人との触れ合いが好きだった。何年か前から登録しようと思っていたが、20回になるのをきっかけに参加することにした。現在はウェルカム部会で活動中。
- よかトピアでAPCCを知ったときに、国際会議場などで会議をしているのかと思った。ボランティアとして参加してみてもっと内容が分かった。「こども会議」という名称は悪くはないと思うし、勉強に来ているのだという目的意識を持たせるにはよいと思う。APCCのことは知っていてずっと気になっていたが、自分自身は若い頃国際交流にも英語にも触れていなかった。「こどもには！」と思いキャンプに参加させたのがきっかけ。色んなボランティアをしていたが、若い人たちとこれほど関わることはなかったので、いい機会だと思った。自分が若い人たちから受ける刺激や色々勉強になることが多く、参加した。

司会：APCCとの出会いは7、8歳の頃。まだJCの運営であったときに、派遣の団員

としてマレーシアに行ったのがきっかけ。10数年間空いた後、新聞記事でJC世界会議があったときに、誘いもあって関わりを再開し参加した。

統括幹事：よかトピアのときに自分は4、5年生位で、第1回のこども大使と同じくらいの年齢だった。APCCに関する情報は聞いていた。20歳のときに、福岡市の成人式の企画に大学からの要請で参加した時、第11回の実行委員長だったJCの方に出会った。そこで話を聞き参加した。

**【質問】** 活動の中でこういう点がやり難いなどはないか。あるいは他の人がやり難いと感じていると聞いたことなどはないか。

- 初めて会議に参加した時など、若い人達の雰囲気があるので、人によっては居辛いと感じるかもしれない。ずうずうしいくらいでないと参加しにくいかも。登録説明会に参加する社会人の数と、その後登録する人数が気になるところ。

統括幹事：登録会に来てその雰囲気で登録を止める人もいるのは事実。若者の団体と取られがちだが、それは違うと思う。ボランティアの年齢層のバランスは確かによくないと思う。皆さんのように経験や知識がある方からAPCCが受ける利点は多いと思う。子育てが終わった方や団塊の世代の方の登録が望まれる。皆さんのご意見をいただきたい。

- 10年前は社会人が半分ほどいたと思う。社会人でボランティア団体の代表の方等が中心となって、若い人と一緒に活動していたイメージがあった。その後APCC内にも色々なルールができてきて、自由度がなくなってきたのかなとも思う。
- 30～40代の男性は仕事も忙しいので仕方がないのかとも思う。色々な関係で参加している社会人もいると思うが、同世代の登録者が増えれば、その人達の負担も減っていくと思う。

統括幹事：仕事・家庭もあって大変だとは思いますが、気負いなく参加出来ないだろうか。

- 学生から社会人になると参加をやめていく人が多い。福岡から出て行くことも多いのだろう。学生の10分の1位しか地元に残らないのではないか。
- 30～40代と言えばHFのお父さん世代。その人たちを取り込めないだろうか。家族ぐるみで、お父さんがこどもと一緒に出来るようなものがあれば。
- 中学生ができるボランティア活動があるといい。また、お父さん方が参加できる部会がないだろうか。関わった人が上手くボランティアへと移行していけるような仕組みがあれば。今まではAPCCのお客様の立場だったのが、これからはお手伝いをするという意識に変わる人もいれば、お客様で終わる人もいる。

統括幹事：様々な企業にもサポートをいただいているが、お父さん方の会社からも何らかのサポートをいただけると有り難い。

- 会社から（社員をボランティアとして）参加させると面白いと思う。
- きっかけ作りが大切。登録会もハードルが高い。興味を持って、予約して、という段階

が障害となっている。

統括幹事：確かに皆さんにも、興味を持ってから登録するまでにタイムラグがある。

- インターネットで登録用紙がダウンロードできて、すぐ登録できる仕組みがあってもいいのではないか。忙しいこともあり、事務局まで来るのはなかなか大変だろう。
- 登録会で一度に色々と説明されても分からない。とりあえず1年間やってみて、その後で部会登録するというのもいいのではないか。現在の登録の形は「やる覚悟はありますか」的な部分が多いと思う。
- 実際に本人を確認したいという意味で登録会を開催しているのだろうが、もっと緩い形でもよいだろう。
- 登録後に顔合わせ会があればいいと思う。コアなメンバーばかりではなく、新規登録者の集まりなら気楽に参加できるだろう。すでにベテランボランティアの世界があり、特に新しい人には内輪的で入りにくい

司会：再登録者と新規登録者との間の壁をなくすために、ボランティア部会としても交流会を企画しているがなかなか参加者が集まらない。

- 1年やれば和気藹々と楽しいのに、もったいないと思う。2、3回の交流会では難しいのかもしれない。1年間一緒に仕事をやり遂げると、その一体感で「お疲れ様」という気持ちになる。ボランティアはそこをゴールとして活動しているので、「交流会をどうしたら・・・」というよりも、そのゴールに達せば一体になれる。その前では予備軍的な交流会や飲み会の形になるのかもしれない。
- まずは新規登録者だけで交流会をした方がいいのではないか。
- 新規登録者はどの部会に入るべきなのかもよく分からない。1年をお試し期間としてやってみて、それから特定の部会に登録すればいいのではないか。それまでは興味のある部会にちょこちょこ入って勉強することができればいい。登録会では興味のある部会に丸を付けるくらいの感じでいいのではないか。

統括幹事：初年度は部会の配属にこだわらなくてもいいのかもしれない。新規の人には「色々な部会で随時お手伝い願います」くらいの感じで活動をお願いするのもいいかもしれない。

- 友人がいれば別だが、そうではなく全く初めての人にとっては色々と見ることが出来た方がいいのかもしれない。
- 各部会の登録者数を気にする必要はないのだろうか。
- 現在は部会メンバーに出すメールと全体に流すメールの内容が違うが、この日にはこの部会をするというメールを全員に送信してもいいかもしれない。
- 登録会では、新規の人に活動内容を説明するだけでなく、その人たちがどういう思いで来ていて、何をやりたいのかを聞く場も必要かもしれない。事業の情報だけだと個人の思いとずれてくる部分もあるだろうが、お互いに刷り合わせができればいい。現在の登録会ではビジネスのように感じる。

統括幹事：18回では実際に登録をする人が、登録会に来た人の50パーセントにまで減ってしまったこともある。

- もったいない。登録会のやり方の問題だと思う。
- 登録会では5～6人の小グループで自己紹介をしたり、参加しようと思ったきっかけや、やりたいことを聞いていったりした方がいい。

司会：再登録者の数も前年度の半分以下になっている。

- 登録用紙を再度提出するのが面倒。
- 写真を貼り付けるのが面倒。インターネットで手軽に再登録出来ればいいと思う。
- 再登録制度は「今年はどうしようか」と考える機会にはなっているが、面倒くさい。
- 名札などがあれば、ボランティア同士名前を覚え易い。名前と年齢、登録した年など。せめて名前だけでもお互いに分かるようにするとよい。街で会っても名前を覚えていないと声を掛け辛い。昔は社会人が多かったそうだが、その方達は戦時中に兵隊として南太平洋に行ったことがある人達だったのかもしれない。

統括幹事：昔日本が戦争をしていて、戦地となっていた島々の子ども達が、今こうして日本に来ていることの意味を若い人は知らない。そういう部分を若い人にも知ってほしい。

- 結局ボランティアとは人と人との交流。どんなことでもいいから、話せる場を作らねば。

司会：自分がAPCCでの活動に熱心に取り組むようになった原因は、幅広い年齢層のボランティアさんがいるから。色々な体験談を聞けるから魅力を感じている。そういう体験談を通じて自分の将来に向けての視野も広がるので、色々な年齢層の方々に参加してほしい。

【質問】マスコミの広告やお子さん経由でAPCCを知った方が多いが、皆さんのきっかけは？

- 一番は口コミ。
- 楽しんでる人を見て興味を持つ。私もそうだった。HFをして楽しかったという経験を聞いて参加した。
- 3年くらいHFをしていて、黄色いTシャツの人が皆ボランティアだということがやっと分かった。それくらいボランティアとHFさんとの間に距離がある。
- 事務局が8人ということと、その他が皆ボランティアということにも驚いた。

【質問】APCCでこういうことをしたい、したらいいという意見を出してください。

- BCの報告会などは昔のHFも興味があるのではないかと。1週間受け入れた子ども達その後何をしているかという点は興味深いのではないかと。もっとHFのOBにBCのことを広めてもいいと思う。

統括幹事：HFとして受入れをした後、APCCを離れてしまうのはもったいない。その

ネットワークをつなげることで、何かできるかもしれない。

- ファン拡大部会はいいいアイデアだと思う。

統括幹事：中学生ボランティアも募集しているが、なかなか活動出来る場が少ない。今そこをつなげていこうとしている。

- つながりがないところと言えば過去のHFだと思う。凄い数の方が関わっているのだから、そこをつなげる何かがあればいい。
  - こども大使の滞在日数を少し長く出来ればいい。HFとも仲良くなれていいと思う。登録会については、自分は2回くらい参加したが、2回とも申し込み用紙を書いたはいいが思い切れなかった。部会の先輩ボランティアさんの話を詳しく聞けるといいと思った。
- 統括幹事：活動中にお互いに話が出来て、帰り際に「ありがとうね」と言ってくれる人がいると全然ちがう。
- そういう思いを持って来ている新規の人が多いいので、何かきっかけがあるといい。慣れている人に話をふってもらうなど。知らない人ばかりの事務局に入ってくるのは勇気がいる。
  - 事務局員の写真と名前位はHP上に出したらいいのにも思う。個人情報の問題もあるから難しいかもしれないが。事務局に入りやすくなると思う。
  - 登録会で仲良くなれるのが一番いい。

統括幹事：登録会に来る時点でやる気はあるのにもったいない。

- 登録会では自分の思いを出せずに、不完全燃焼で帰ってしまうのかもしれない。「登録交流会」にするのがいいのかも。資料をもらって説明を受けても途中で疲れてしまう。
- グループに分かれて話し合うなどするといい。

司会：ボランティア部会でも初回からは知らなくてもいい部分を省いたりしてアレンジをしているが、なかなか良いアイデアが出ない。

- 少人数の方が話し易いので、自己紹介や登録会に参加したきっかけを話したりして仲良くなるのがいい。その中の一人でも気が合う人が見つければ、それから参加できるだろうし、部会についての相談も出来ると思う。

司会：登録後はどうですか？今日みたいな場があるとどうでしょうか？

- 話したいことはあっても、今までは機会がなかったなので、こういう場はいいと思う。
- ある時は社会人、あるときは新規登録者、あうときはその他の層でこういう場を持てるとうい。登録会でやってもいいし、あまり難しく考えなくていいかもしれない。
- 人によって色々な思いがあるから、マイナスな意見ばかりになるとよくないが、建設的な意見を述べられる場があるとよいと思う。登録会ではAPCCの原則を打ち出しておいて、「これに賛同する人」という部分も必要だが、人同士のコミュニケーションの場としてもっと改善できると思う。